

車両の安全対策に関する各被害者団体からの意見まとめ (情報提供)

車両の安全対策に関する各被害者団体からの意見まとめ

- 第12次交通安全基本計画（中間案）に関する公聴会（令和7年11月）において、交通事故被害者等の団体から寄せられた意見のうち、車両の安全対策に関するものは下記のとおり。

No.	ご意見等	回答
1	<p>被害者家族の懸命な活動により厳罰化への動きが見えますが、警察庁による令和6年の飲酒運転死亡事件は140件と前年より28件増加しています。飲酒運転根絶を「4車両の安全性確保」内に「飲酒運転根絶のための整備」などとし、アルコールインターロックなど飲酒を感知したらエンジンがかからない装置を全車両に義務付けを推進していただきたいです。ドライブレコーダーが普及していることを考慮すれば実現可能な対策だと考えます。飲酒運転は防ぐことができる犯罪です。年間100名以上の命が奪われることを予防できます。</p>	<p>アルコールインターロック装置の全車両への義務化については、なりすまし防止策や、大半を占める飲酒運転を行わない車両所有者へのコスト負担増等の課題があることから、慎重な検討が必要と考えているが、引き続きアルコール・インターロックの普及促進を図っていく。</p>
2	<p>今年8月自動運転バスの事故によりけが人が出ました。少子高齢化、労働者不足の中、今後も自動運転によるバスやタクシーが普及していくのではないかと懸念があります。弊会会員でもバスに衝突され死亡されたご家族がおられます。大型車両事故は甚大な人的被害に繋がることを考慮し、安全対策を推進して欲しいです。</p>	<p>ご意見のとおり、大型車両（自動運転を含む。）の安全対策を推進していく。</p>